

日本とゆかりの深い聖地

杭州湾の南に位置する浙江省・寧波は古い歴史を持った港町である。縦横無尽に張り巡らされた運河と無数の橋、河岸の豊かな緑が四季折々に風情ある景色を彩っている。

遣唐使船の寄港地として知られ、古くは奈良時代から日本との交易を行っていた。日本への仏教布教の拠点でもあり、日本から

も多くこの地に留学していた。市内に

●中華人民共和国● **寧波**
補習授業校

はいまでも数多くの仏教寺院がある。「聖地」と呼ばれる所以である。

寧波はその後のいくたびの政変にもかかわらず、一貫して港湾都市、仏教都市としての性格を変えることなく、現在でも多くの外国人が暮らす国際的な都市として、上海・杭州とともに杭州湾に面したデルタ経済圏を形成し、飛躍的な発展を続けている。

現地の教育環境

市内にはいくつかのインターナショナルスクールがあり、多くの外国人子女を受け入れている。授業を英語で行っている学校

が三校あり、

うち二校はそれぞれアメリカ系とオーストラリア系の教育プログラムに準じている。クラスは幼稚園から高校までが用意されている。また浙江省の教育水準は非常に高く、中国語はもとより外国語教育に力を入れ

最近ではインターナショナルスクール間のみならずインターナショナルスクールと現地校との交流の機会も増えてきていて、スポーツの練習試合や文芸発表会などの合同開催も活発に実践されている。

さまざまな経験や
感性を大切に

本校は二〇〇七年に開校して以来、日本



借用校舎外観



天一広場



月湖のほとり



小学部 4年 国語



七
学



小学部2年 算数



小学部3年 国語



小学部5年 国語



小学部6年 算数

寧波日本語補習授業校
URL <http://nbjpschool.sblo.jp>
児童生徒数 小=15人

子どもたちから

あさかりには、
ことはあそびがあるよ。(小1)

補習校のみんなは、とてもなかよく
しています。楽しいです。(小3)

人数は少ないけれど、先生に
しっかり教えてもらえるよ。(小6)

国籍を所持する就学児童に対して、毎週土曜日の午前中を利用して日本同様の教科書を用いた授業を行っている。児童数の変動はあるものの、平均して十五人前後が在籍している。授業の内容は、国語二時間と算数などの教科一時間の合計三時間となっている。これを年間三十五回実施している。

本校の大きな特徴としては、児童のプロフィールがバラエティーに富んでいる点である。特別な大都市でもないのに、日本からの転入生以外にも、中国人あるいはそのほかの外国人を親に持つ児童、日本での生活経験のない児童などが混在している。育った環境も日常の学校生活や使用言語の背景もまったく違う子どもたちではあるが、みな一様に本校の授業を楽しみにしていて、毎回にぎやかに授業が行われている。

講師陣はおもに日本語学校の先生などで構成されているが、これまでに駐在員、主婦、留学生などさまざまな職種の人たちからも協力をいただいている。講師陣の指導はとても親切できめが細かく、保護者との連帯を持ってあたっている。

る。

また保護者のアイデアにより、月に一回のペースで日本の行事や節日に合わせた交流授業を実施してきていて、子どもたちに日本文化の理解を深めてもらうよう努めている。これは同時に、高学年から低



クリスマス会でクリスマスソングを合唱

学年までの児童が仲よく一つの作業に取り組めるよう配慮して計画されているものがある。そのなかでも、毎年末に開催される日本商工クラブ主宰の忘年会パーティーで小さなサンタクロースに扮して披露する合唱は特に好評であり、風物詩になっている。本校の児童は、当地の日本人のみならず、中国人やそのほかの外国人コミュニティーに支えられながら生活している。本校においても児童たちのさまざまな経験や感性を将来に生かしていけるような授業運営を目指している。

(二〇一二年八月現在)